

にいがた

新潟県老人福祉施設協議会広報誌

2013.12.20 NO.19

# ろうしきょう NEWS

■ 第19回新潟県老人福祉施設研究大会特集号  
巻頭シリーズ・元気な笑顔が素敵! すまいる介護マン



1

右上は奥さんと。出勤は8時30分で17時30分退勤。奥さんはショートステイ部門のため、勤務時間が異なる。「不規則な勤務なのですが、家事も手伝ってくれるので助かります」



2

午前はディサービス部門でリハビリ指導。担当している利用者の状況を聞きながら階段昇降など、筋力トレーニングを中心としたメニューを組み立てます。

利用者、もっと家族と継続的に関われる仕事にしたい。

自宅に戻る時には、何かをつかんで帰つて頂けるようなサービスを。

すまいるマン 赤川弘明さん

○所属 特別養護老人ホーム 黒崎の里  
○経歴 新潟市出身 30才 新潟リハビリテーション大学卒業後、同施設に勤務し、今年で8年目。同僚で介護士の路代さんと昨年結婚。部署は違うが、同じ施設で共働き。  
○趣味 野球、サッカー、バスケ等スポーツ。



3

午後からは、ショートステイ、特別養護老人ホームの入居者の方にリハビリトレーニングを指導。「個人指導で医者に通っても治らなかった痛みが消えた」など信頼は厚い(右上は施設内にある鳥居)。



特別養護老人ホーム 黒崎の里

○運営 新潟南福祉会  
○特別養護老人ホーム 定員50人  
ショートステイ 定員20名  
ディサービスセンター 定員30名  
○新潟県新潟市西区金巻728  
TEL025-377-1116

■就職の理由 学生の時の実習先が急性期病院でした。患者さんは三ヶ月くらいで別の施設等に移されるので、内心複雑でしたね。病院に行つたらもう退院されたり。利用者の方とずっと関わりたくてこちらにお世話になりました。

■仕事のポイント 以前ここで一緒に働いていた相談員の方に教えてもらった言葉「この施設ではできても、自宅でできなくては意味がない」。ショートステイで来られた方が自宅に戻られる時は、自宅同行して、環境を見て、在宅でもやることをアドバイスしています。ご家族と直接話して、ここでの情報をフィード

バックすることを心がけています。ただ泊まりに来るのではなく、何かをつかんで帰つて頂ければ。

■つらかったこと がんばっていたのに、腰が痛くなつて動けなくなつたとか、治つたのにまた怪我で戻つて来られたりとか。積み上げてきたものが元に戻つてしまふのを見るのはつらいですね。

■今後の自分 介護の業界は、ニュースなどで頻繁にとりあげられて、利用者の知識も向上しています。ますます要求も強まってくると思いますし、それに応えられるよう自分たちももっとサービス向上に努めたいですね。



家族に情報をフィードバック

# 第19回研究大会特集

第19回新潟県老人福祉施設研究大会は、9月25日好天に恵まれ、弥彦総合文化会館で全体会が開催されました。今年は「高齢者の地域福祉の拠点としてのあるべき姿を目指して」をテーマに、初日は弥彦村、二日目の26日は三条市に会場を移して第3ブロック地区内を広く利用させていただきました。4月から組織改正が行われ、分科会も、「災害対応」という、喫緊の課題を第5分科会で、新組織の21世紀委員会委員（第3ブロック）を中心に「福祉のプロとして働くために」と題して第6分科会でそれぞれ開催するなど、新しい試みが実施されました。第3ブロックの会員の皆様からは、大会の運営につきまして特段のご協力をいただきました。紙面を借りまして御礼を申し上げます。



▲山保実行委員長の開会宣言

## 実りのある第19回新潟県老人福祉施設研究大会を終えて

平成25年9月25日、26日の二日間に渡り、老施協第3ブロックが担当し、弥彦総合文化会館と燕三条地場産業振興センターを会場に、第19回新潟県老人福祉施設研究大会を盛大に開催することができました。大会開催するにあたり、弥彦村をはじめ各関係団体、行政機関、実行委員、事務局及び関係者の皆様のご協力に厚く感謝申し上げます。

今大会のテーマは、『高齢者の地域福祉の拠点としてのあるべき姿を目指して』、サブテーマとして『高齢者が住み慣れた地域で暮らしつづけるために』と掲げました。現在の制度や地域の現状を踏まえ、私たち高齢者福祉に携わる者は、今、何を目指し、何を行動しなければならないかを考える機会になればという思いからでした。

記念講演では地域の皆さんにもお越しいただき、約800人の方から講演を聞いていただきました。第1部は、宇宙飛行士の山崎直子さんより「宇宙・人・夢をつなぐ」と題して、宇宙ステーションでの生活を紹介しながらチームワークの大切さをお話していただきました。第2部では、東京の特養芦花ホーム医師の石飛幸三さんから「変革の時を迎えた高齢者終末期のあり方」と題して、現在の高齢者終末期ケアのあり方についての提議があり、終末期ケアを進めるなかで医師として一石を投じる貴重なお話をでした。

2日目の分科会は、いくつかの新たな取り組みで行いました。第1に、今年度より当協議会に設置された現場の若手リーダーが組織する21世紀委員会運営委員が中心になり、分科会を企画しました。分科

会の運営の様子から次世代を担う若手リーダーの活動に私自身、頼もしさを感じました。第2に、「自然災害に対して継続してサービス提供できる施設」をテーマに分科会を企画しました。昨今の多発する風水害や地震等の災害に関する取り組みは喫緊の課題であると考えました。もう一つ新たな感動がありました。それは分科会にご利用者自身から直接参加していただいたことです。今までの事例発表は、どうしてもサービス提供者側からだけの内容になり、実際にサービスを利用されている人の感想等を直接聞く機会がありませんでした。当日は、ご本人が登壇されて感想と感謝の言葉をお話しされ、分科会参加者は感銘を受け、会場全体がすばらしい雰囲気で終わることができました。いずれの分科会も熱気に包まれた中で真剣な意見交換が交わされて、今回の企画が成功に終わったのではないかと思っています。

最後に、実行委員長として至らない点も多々あったかと思いますが、多くの方のご協力により、本大会を終了できたことを、心より感謝申し上げます。



第19回新潟県老人福祉施設研究大会  
実行委員長  
特別養護老人ホームさわたりの郷  
施設長 山保 司郎



▲朝、スタッフ全員が集まり、山保実行委員長の指示の下、準備を開始しました。



▲本会事務局から、細部の指示・連絡が行われています。



▲総合司会の佐野施設長の澄み渡った声が会場に響きます。

## 19th CONVENTION



▲被表彰者を代表して、三条市地域包括支援センター西丸恵理子センター長から謝辞をいただきました。



▲市井会長から、大会の趣旨、介護業界を取り巻く環境の変化等を含めて挨拶されました。



▲宇宙飛行士の山崎直子氏からは、一歩間違えば大きな事故を引き起こしかねない状況の中での緊張感あふれるNASAの訓練の様子、壮大な宇宙のロマンなどを熱く語っていただきました。最後は会場の最上階まで登られ、質問にも丁寧にお答えいただきました。



▲石飛先生のご講演には、一人の人間としての人生の終焉の迎え方、その時の介護のあり方等について深く考えさせられました。



▲感動の講演会のあとは、同じ業界に身を置く仲間たちと楽しい語らいのひと時を過ごしました。

## 19th CONVENTION



▲第3分科会が始まります。東京福祉専門学校の白井先生がスタンバイされました。



▲第1分科会の事例発表は清野施設長の「組織改編の取り組み」から始まりました。



▲第2分科会は井野端実行委員の司会で始まりました。



▲第6分科会は、新しい試みとして、第3ブロックの21世紀委員が担当しました。原点に返って「福祉のプロとして働くために」何をすべきか考えました。



▲第4分科会の認知症は、きらめき介護塾渡辺先生の軽妙な話しぶりが親しみを増し、会員の理解も深りました。



▲第5分科会のご講演はコラボねっとの石井先生です。中越、中越沖地震の貴重な体験を基に分科会が進められました。

# 大会を終えての感想

## 全体会総合司会の感想

9月25日・26日の2日間の日程において、全体会の総合司会を務めさせていただきました。永年勤続表彰など厳かな雰囲気の中で式典が執り行われ、身の引き締まる思いで進行させていただきました。記念講演では講師の山崎直子さん、石飛幸三さんの興味深いお話に引き込まれ、笑いと感動に満ちた大変有意義な講演会になりました。予定通りに全体会を進めることができましたのは、ひとえに皆様の協力と大きな支えがあったからです。このような貴重な機会を与えていただいた事に感謝申し上げます。ありがとうございました。

特別養護老人ホーム  
白ふじの里 施設長  
**佐野 一美**



## スタッフとして参加した感想

今年度、初めて研究大会の運営に参加させていただきました。

第3ブロック部会長を中心に直前まで打ち合わせを重ね、念入りに準備してきた甲斐もあり、素晴らしい研究大会だったのではないかと思います。

普段では知ることのできない研究大会の舞台裏を経験でき、非常に良い勉強になりました。また、参加者としても分科会等々で色々な話を聞くことができ、有意義な2日間となりました。

このような機会をいただき、本当に有難うございました。



デイサービスセンター岡南  
生活相談員  
**内山 真吾**

## 発表者として参加した感想

今回は、県老施協の第3ブロックでの運営という立場で参加させて頂きました。大会1日目では講師の方々の接客が主で、身近に接する機会であり貴重な体験でした。2日目は、第3分科会の運営にあたり、参加者が一番大勢であり初対面のスタッフではありましたが、同業者同士で直ぐに打ち解け、無事に終える事ができました。2日間を通して、大会運営のご苦労を感じるとともに他施設での取り組み、情報交換の場となり有意義なものでした。今後、機会があればスタッフとしてまた、参加したいと思います。お疲れ様でした。

特別養護老人ホーム  
つかのめの里 次長  
**相田 香苗**



特別養護老人ホームしおかぜ荘  
主任生活相談員  
**西巻 雅人**

## 発表者として参加した感想

この度は、老人福祉施設研究大会の分科会において、当法人の取り組みを発表する事となり、大変緊張しましたが私にとって貴重な体験となりました。発表した事例については、参加された皆様の参考になることは少なかったと感じておりますが、事例発表をすることで、分科会の講評をしていただいた講師の福田啓造先生より適切なご指導をいただくことができ、参考になることが多い研究大会となりました。

特別養護老人ホーム東蒲の里施設長

**清野 光**



**19th  
CONVENTION**

# 北欧・福祉の国をまわって

—自分らしく生きてください—一国がそれを保障します

特別養護老人ホームジェロントピア新潟 施設長

松田美穂さん

## ●施設長リレーコラム●



民間社会福祉施設職員等海外研修の団員として、2013年8月31日より9月12日まで、北欧4カ国を訪問し、福祉施設や行政など8か所で研修をする機会を得ました。市役所や介護施設、リハビリ機器センターを訪れ、意見交換をするばかりではなく、現地の高齢者とも活発な交流ができました。「高齢者は人生という旅の途中。その方が望む旅が続けられるように支援する」と、自ら認知症のグループホームを立ち上げられた施設長は「私は私のやりたい仕事をする」と自信に満ち溢れています。施設長は全員女性で、今さらながら女性のパワーを感じました。スウェーデンでは、女性機長の飛行機に初めて乗りました。

水道水がおいしかったことは特筆すべきで、真っ青な空と澄んだ空気の中で大きく背伸びをすると、日本で窮屈に縮こまっていた本来の自分が息を吹き返したように感じました。日本では「こうあるべき」という制約が多く、個性的、独創的な人間にとっては、それが生き難さにつながり、活動の抑制にもなっているのではないかと思います。今後は「もっと自分に自信を持ち、自分の思いを大切にしよう」と、「福祉の根本は自己肯定である」という事に改めて気付く事ができました。

どこの施設にもピアノが置いてあり、様々な場所で演奏させていただきました。音楽は言葉を必要としないソノバーバルコミュニケーションの最たるものです。言葉が話せなくても音楽を通して共に楽しい時間を過ごすことができ、また認知症のケアにも音楽が活用されていて、音

楽の力を再認識する貴重な体験となりました。

「医療も教育も無料」収入の50%以上を税金に支払っても市民から不満が出ないのは、行政への信頼だと思います。介護や福祉に直接市が関わっていることがサービスの無駄をなくし、利用者の声や現場の声も集約しやすく、市民に満足感を与えているようです。国民皆番号制による情報の共有と透明性、公平性の上にある福祉サービス。それも必要最小限であり、過剰なサービスはかえって自立を妨げるという考え方がありました。利用者も我慢強く18歳になつたら独立が当然で4カ国どこも自立心が高い国民性でした。

2020年のヘルシンキ市の目標は「Old age of my kind自分らしい年のとり方」だそうです。松田のケアに対する夢や願いとぴったりと同じです。制度の保障があれば「自分らしく生きること」のお手伝いができるのだと、自信と希望をいただきました。



デンマーク ニューハウン



人魚姫2013年で満100歳

## 社会福祉法人ジェロントピア新潟について

ジェロントピアとは造語でギリシャ語で高齢者という意味の「ジェロント」とユートピア「楽園」のトピアを合わせた言葉で、高齢者と障がい者の楽園を意味しています。私の父故竹本吉夫(前秋田赤十字病院院長、日本赤十字秋田短期大学初代学長)が遺した言葉です。

社会福祉法人ジェロントピア新潟は平成16年6月に設立、平成18年12月開設の特別養護老人ホームジェロントピア新潟(入所定員100名)全室個室ユニット型施設と、平成20年4月開設の地域活動支援センターすずらんクラブ・すずらんCafeを運営しています。

特養の中庭には角田山の麓から運んだ八重の枝垂桜があり、

年見事な花を咲かせています。年を重ねた方々にとって桜は特別な花であり、施設のどこからでも眺めることができます。今は亡き父が「人生の完成期に必要なのは、自然と芸術と宗教(哲学)だ」と言っていたのを桜の花を見る度によく思い出します。お年寄りが過ごす施設だからこそ自然が感じられ、芸術の香りのする運営を心がけてきました。

建物の中心には新潟の誇る宮田亮平氏(現東京藝術大学学長)の波に飛び跳ねるイルカがあります。桜が満開の時はイルカを通して桜が眺められ、そのコラボレーションは見事です。先生のイルカはたたくと海の音がし、優れた芸術作品は人を癒す力になると実感しています。ライフワークとも自負できる音楽療法に巡り合うことができ、日々実践を続けていますが、セッション回数は2500回を超みました。更に音楽療法ボランティアのミュージックグループ虹が、その活動を認められ平成25年度北越銀行賞を受賞しました。平成20年にスタートした家族合唱団コール・ジェロントピア活動も軌道に乗り、すずらんCafeでの歌声喫茶も多くの方々に来店いただいている。

今後も自分自身の持ち味である音楽を最大限に活かし、人生的完成期を過ごされる方々の支援を心をこめて行っていきたいと思っています。



事業所所在地	新潟市西区山田3487番地
運営事業者	社会福祉法人ジェロントピア新潟
事業所の種類	特別養護老人ホーム
開設日	平成18年12月
連絡先等	025-379-1181 <a href="http://www.gerontopia-niigata.com/">http://www.gerontopia-niigata.com/</a>

